

第2回 可児とうのう病院地域連絡協議会 議事概要

- 【日 時】 平成27年2月4日（水） 15時00分～16時00分
- 【場 所】 独立行政法人地域医療機能推進機構 可児とうのう病院 講義室（大）
- 【議 題】 1. 当院の概況等について
2. 自由討議
- 【出席者】 桃井 知良 （医師会／可児医師会長・代理）
甲畑 俊郎 （行政・県／中濃保健所長）
富田 成輝 （行政・市／可児市長）
松下 弘樹 （利用者／自治会長）
平岩 豊司 （利用者／自治会副会長）
三宅 好彦 （利用者／自治会副会長）
岸田 喜彦 （院長）
福井 是子 （看護部長）
奥村 明人 （事務部長）

【概 要】

1. 当院の概況等について

（パワーポイントを使用し、JCHOの理念、当院の年間データ、今年度の状況について説明）

（行政・市）

- ① 診療所や医院との連携で、紹介があまりうまくいっていないとの話がありましたが、原因や医師会との連携の改善について、意見を伺いたいと思います。

⇒ 数年前に医療連携室を立ち上げ、率としては上がってきていますが、満足のものではありません。大きな原因は、紹介をいただいているので、患者さんが納得をする形でお帰りいただきたいのですが、その辺りのことがうまくいかないことがあると思います。医師が一人で対応しなければならず、お断りするケースもあつたりしています。

（医師会）

⇒ 病診連携に関しては、最近は受けていただけるようになり、電話の取り継ぎなど流れとしてはスムーズになっていると思います。紹介率が少ないのは問題だと思います。個人的には、脳腫瘍や脳外科はネックになっており紹介しづらいところがあります。以前に勤めていた病院の経験では、紹介された先生にあまり細かいことを聞かず、さっと受けた方が病診連携はうまくいくと思っています。

ひとつの考え方として、可児とうのう病院は地域の何だったのかというのがあると思います。市民病院の代わりをしていて、市民の意識が高く、大義名分が出せるお金がある時は、市からいくらか援助ができると思います。ぜひ市民のためになるということを一生懸命考えなくてはいけないと思います。

(行政・市)

⇒ 市からの補助金は、一時期切られたこともありましたが、ここ3年は続いています。病診連携は支援する位置づけになりますので、支援は続けていきたいと思っています。

また、医師の数が十分でないところがいろんな形で出てきているので、何とか少しでも改善できるように、行政としても応援できたらと思っています。

(利用者)

⇒ 地域住民としては、市が口も出せばお金も出しているのです、信頼の証だと思います。

(行政・県)

⇒ 可児とうのう病院が市からの援助を受けながらやっていくということで安心しました。病診連携については、他のところではできないことを請け負っていただきたいと思っています。頑張っていただけだと思います。

2. 自由討議

(利用者)

① 昨年、大規模な防災訓練に参加させていただき、とても心強く思っています。

また、病院の情報誌では、こんなこともできるのだと情報不足が解消され、今後も充実していただきたい。参考までにどのくらい発行していますか。

⇒ 年4回の発行で、1回あたり2000部を発行しています。

(利用者)

② 市民病院のことについて、今後の基本的な計画についてお話ししていただきたい。

(行政・市)

⇒ 市民病院ができるという話が出ていますが、どのような経緯で出ているかわかりません。結論としては、今日の話にもありますように、全国的に医師が不足している中で、新たに病院を作って医師が集まるのかという問題があり、あり得ません。

可児とうのう病院が全国的な病院のため、何とか医師も確保していただいていると思います。ベストな方法は、可児とうのう病院の実績と、全国との連携や大学等の

連携を大切にして、市民病院に代わる二次医療の拠点病院として位置付けていく。可児医師会とも連携させていただいて、地域医療や高齢者医療に協力をいただくのがよいと思っています。

(終了 16:00)